

# 学校だより

埼玉大学教育学部附属特別支援学校  
令和4年度 学校通信 No.10  
令和5年1月10日



## 新年のご挨拶

副校長 池澤 健

新年あけましておめでとうございます。皆さまのような年末年始をお過ごしでしたでしょうか。

私は大みそかを妻の実家で、毎年楽しみにしている紅白歌合戦を観ました。長年「女性は紅組、男性は白組」という伝統的なスタイルで行ってきた紅白ですが、性の多様性の価値観がひろがり、そうした従来の演出は控えめになっていました。番組の伝統を守りつつも新しい時代に向けて変化を受け入れいく前向きな挑戦を感じながら楽しませていただきました。

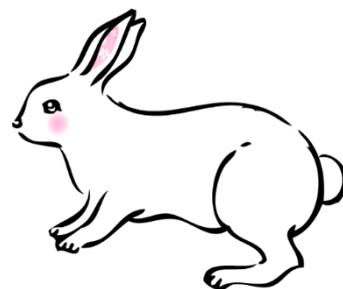
テレビの話ばかりで恐縮ですが、NHK スペシャルのシリーズ「超・進化論」も大変興味深く拝見しました。植物や昆虫が様々な環境に適応するために多様性を獲得してきたことについて、従来は「生存競争」として考えられてきた生命の進化ですが、最近の研究によると進化の多様性にはしたたかな「共存戦略」が見えてくるというものでした。最新のCTを使ってモンシロチョウのさなぎの中の変化の様子を撮影した映像も紹介されました。最新の科学で明らかになった生命の不思議は感動的です。私たちがこれまで知っているつもりだったことは、ほんの一部に過ぎなかったようです。

特別支援教育に携わる者として、また家族や社会とともに生きる一人の人間として改めて考えますと、世代や性別、文化、個性など、様々な「多様性」はそれ自体にも意味があり、それぞれの違いが関係性を育みながら、私たちは生命や生活をつないでいっているのだなあ、などと思いを巡らせました。これからの共生社会（「共生」は生物学の用語でしたね）を作っていく私たちには、価値観の多様性や変化を受け入れられる寛容さが必要になりそうです。

本校の教育活動もそのような変化に対応していけるよう、前向きに挑戦していきたいと思えます。

さて本年は卯年。跳躍するウサギにちなみ「飛躍」や「向上」の年と  
言われています。

跳躍には瞬発力が必要です。腕を大きく振り、全身の筋肉をタイミングよく瞬時に動かすことが求められます。そして大きな跳躍には膝を曲げ、力をため込むことが大切です。一見すると成長が止まっているように見えるとき、また少し後退しているように見えるときも、それは次の大きな跳躍のために力をため込んでいる姿なのかもしれません。目に見えない日々の努力や悩み苦しきは、きっと大きな跳躍につながると  
思います。これまでの努力が実を結び、みなさまにとって、大きな飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



## お知らせ



### 【サッカーボールをご寄付いただきました】

さいたま市の継続B型事業所「PiiS Plaza さいたま」代表であり現役Jリーガーの畑尾大翔様から、施設立ち上げの際行ったクラウドファンディングのリターン事業として本校へサッカーボールをご寄贈いただきました。授業などで大切に使用させていただきたいと思えます。